

《 環境報告書 2014 》

ISO推進委員会

1. 四日市農芸高等学校 環境理念・環境方針

環境理念

私たちは科学技術の発展のおかげで、たいへん便利で快適な生活を手にすることができました。しかしその一方で、限りある地球資源の大量消費やそれに伴う環境破壊が深刻化しています。このまま放置すれば、やがて人類は自分たちの身勝手な行為により自滅する危険さえ生じてきました。

私は、三重県立四日市農芸高等学校長として、美しく素晴らしい地球環境を後世に引き継ぎ守っていくために、日常の教育活動の中に環境教育を導入します。生徒の環境問題への関心を高め、積極的な環境保全に取り組むことのできる人材を育成することを教育方針の一つとします。

そのため「環境マネジメントシステム」を構築し、実行することをここに宣言します。

環境方針

1. 三重県立四日市農芸高等学校では、校地、建物、施設等で行うすべての教育活動の中で発生する環境への影響について、配慮を行います。
2. 毎年3月、環境マネジメントシステムのレビューを行い、その継続的な改善を実施し、環境汚染の予防に努めます。
3. 国、三重県、四日市市の環境関連の法律及び条例並びに環境に関連する他の団体との同意事項を遵守します。
4. 環境負荷を低減するための目的・目標を設定し、環境への影響をコントロールする「運用管理」を実施します。また、定期的にレビューを実施します。
5. 本校は、環境方針を文書化し、実行し、維持していきます。
6. 本校は、環境方針を組織で働く、又は組織のために働くすべての人及び全校生に周知します。
7. 本校の環境方針は、学校要覧、学校案内、ホームページ等により広く校外に公開します。

2014年4月1日

三重県立四日市農芸高等学校

校長 辻 修 一

2. 2014年度 環境目的・目標

No	環境目的	環境目標(単年度)	責任者部門
1	環境教育		
	環境教育を通して、生徒に「想像力」「行動力」「理解力」の3つの力をつける	各教科・各コース等での、環境教育の実施と展開 環境週間の実施と展開 環境月間の実施と展開 地域とのコミュニケーション活動の推進 防災教育(防災訓練)の実施	■すべての部門
2	地球温暖化防止		
	① 節電を実行する	グリーン購入法に従い、節電型電球の100%利用を進める・電気使用量、前年度比3%削減に努める	■事務部門
	② 節水の啓発活動を実行する	不要な水を出さない取組のために、環境週間を設定し、全部門における啓発を実行する。	■事務部門 教職員部門
3	廃棄物の削減		
	紙使用量の減量化と分別処理による紙の再利用化を推進する	業務活動に関わる紙使用量の減量化に努めるとともに、使用後の分別処理を徹底し、紙使用量における100%リサイクル化に努める。	■事務部門
4	環境コミュニケーションの推進		
	環境意識の向上と環境コミュニケーション活動の推進	職員向け環境教育の実施 校内外への環境コミュニケーション活動の推進 環境報告書の発行	■環境委員会

3. 環境教育の取り組みについて

(1) 環境教育プログラム

◇全部門共通

環境週間	各授業	環境に関する話題に触れる	6月	全生徒
環境月間	各授業	全教員が環境教育を実施する	10～11月	全生徒
防災教育	全校	防災教育(防災訓練)を実施する	9月、12月	全生徒

◇農業学科(生産系)部門

実施(系・コース)	実施科目	教育内容	実施予定月	対象学年
生産系	農業と環境	田植え実習 (河原田小学校との交流行事)	4月	1年生 生産系生徒
生産系	農業と環境	水田観察 (河原田小学校との交流行事)	6月	1年生 生産系生徒

生産系	農業と環境	稲刈り実習 (河原田小学校との交流行事)	9月	1年生 生産系生徒
生産系	農業と環境	餅つき実習 (河原田小学校との交流行事)	12月	1年生 生産系生徒
生産技術コース	野菜	環境にやさしい野菜栽培 病虫害の物理的防除と生物的防除	10月	2年生 生産技術コース
生産技術コース	野菜	野菜の土壌病害とその防除	10月	3年生 生産技術コース
販売情報コース	総合実習	機器の省電力化 紙等情報周辺機器 資源節約について	6月	2年
販売情報コース	総合実習	機器の省電力化 紙等情報周辺機器 資源節約について	6月	3年
販売情報コース	アグリビジネス	農産物マコモタケについて みえの安心食材認定について	10月	2年
販売情報コース	アグリビジネス	農産物マコモタケについて みえの安心食材認定について	10月	3年
食品科学コース	総合実習	薬品の取り扱いと処理方法	5月	2年
食品科学コース	微生物基礎	汚水処理について	1月	3年

◇農業学科(環境系)部門

実施(系・コース)	実施科目	教育内容	実施予定月	対象学年
造園技術コース	造園技術	① 農薬の安全使用(担当:河村)	5月	3年
	造園技術	② 造園樹木の整姿・剪定(担当:河村)	11月	3年
	造園技術	③ 造園で環境をまもる①(担当:前田)	9月	2年
	造園技術	④ 造園で環境をまもる②(担当:前田)	10月	2年
	造園技術	⑤ 造園で環境をまもる③(担当:前田)	11月	2年
	造園計画	⑥ 緑地環境の保全(担当:宮下)	5月	2年
	造園計画	⑦ 都市緑地計画(担当:宮下)	11月	3年
	造園計画	⑧ 造園の意義と役割のまとめ (担当:宮下)	1月	3年
	造園計画	⑨ 造園で学ぶ環境教育(担当:森谷)	1月	2年
環境系	環境科学I	春の自然観察 秋の自然観察 竹林整備	5月 11月 1月	1年
自然環境コース	総合実習	植生調査 水生生物調査	4月～ 7月	2年
自然環境コース	総合実習	竹林整備 里山保全活動	4月～ 4月～	3年
自然環境コース	課題研究	地域の里山公園整備	4～12月	3年
園芸科学科	農業と環境	植物の成長と環境要素	6月	1年
園芸デザインコース	草花	生活と花卉の利用	6月	2年

園芸デザインコース	フラワーデザイン	環境に配慮したデザイン	6月	3年
園芸デザインコース	総合実習	花卉の利用（校内装飾）	11～2月	3年

◇家庭学科部門

実施 (系・コース)	実施科目	教育内容	実施予定月	対象学年
生活文化科	生活産業基礎	(1)地球環境を守るうえで行うこと (2)ISO14001と私たちがすべきこと ・節電、節水、ゴミの分別	4月	1年生
生活文化科	家庭クラブ	学校周辺清掃奉仕作業	5月	全学年

(2) 家庭との連携

- ①学校ホームページを通して、生徒会の環境活動や各コースで実施している環境教育・環境活動（地域交流等）を紹介。

(3) 地域との連携

- ①文化祭（農芸祭）一般公開日において、生徒会環境委員会の活動。文化祭非公開日のリユース食器の取り組みの紹介。環境系学科（自然環境・環境造園・園芸デザインコース）等を中心に環境活動の展示・体験・紹介。
農業クラブが中心となって本校 ISO14001 の紹介展示。
- ②地元河原田小学校と農業学科生産系生徒の交流授業
（水田の田植え・観察・稲刈り・餅つきを通して環境教育）の実施。
- ③園芸デザインコースによる、市内小・中学校への草花プランターの配布。
地域女性会との園芸教室。県庁へ草花プランターによる装飾。
- ④生活福祉コースと地域女性会、自治会との地元竹林公園での交流会。
- ⑤自然環境コースと内部地区との里山公園整備。
四日市市の湿地帯植生調査へ参加。希少植物の繁殖・調査へ参加。
国土交通省の鈴鹿川水生生物調査へ参加。希少植物ササユリの繁殖活動を実施中。地域の植生調査、河川の水生生物調査の実施。
- ⑥販売情報コースにおいて、地域の方とマコモの田植え・収穫・報告会の実施。「みえの安心食材」認定の取り組み。地域交流みのりの丘マーケットの実施。
- ⑦食品科学コースが、福祉施設において環境に配慮した食品製造・販売の交流。保育園での食育活動を実施。
- ⑧家庭学科・家庭クラブ（家庭学科全生徒）による、学校周辺の清掃奉仕活動を実施。

(4) 大学等との連携

- ①：自然環境コースにおいて、大学より教官を講師に招き、四日市大学より「大気環境」。名古屋産業大学より「里山林と草原を通してみた人間と植生との関わり」「竹の活用方法とその経済性評価」の授業を実施。

(5) 環境週間（2014年6月2日～6日）

- ①生徒環境委員会による、ゴミの分別状況、日常清掃の点検。
節電・節水・美化の啓発ポスターの作成と校内掲示。
- ②教職員ひとりひとりが、「環境」や「環境デー」に触れた授業を実施。
- ③学校環境デーの実施（6月3日）
生徒会・生徒環境委員会主導により、地域の美化・清掃活動を毎年実施しています。
全校生徒714名のうち548名（約8割）の生徒と教職員が参加しました。



学校環境デー（地域の美化・清掃活動）

（6）環境月間 （2014年10月29日～11月26日）

- ①10月29日全校集会にて、学校長より「社会の環境問題」「本校の環境への取り組み」について話をおこない、環境月間をスタートしました。
- ②生徒環境委員会では、ロードレース大会終了後の清掃確認、節電・節水・美化の啓発ポスターの作成と農芸祭前に校内掲示を実施。
農芸祭期間中、農芸祭美化係・環境委員により、校内清掃、ゴミの回収・分別を実施。農芸祭終了時には、河原田地区内のゴミ拾いを行いました。
- ③農芸祭（非公開日）『食品バザーでリユース食器』ゴミ減量の取り組み



- ④11月26日、本校環境月間の最終日に、三重県環境学習情報センターより、木村京子先生に講話をいただき環境講演会を実施しました。



- ⑤環境月間を中心に環境教育プログラムに基づき、全職員一人一人が、次ページからの環境教育を実施致しました。

2014環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
国語	玉崎秀人	『 小説 』 【教育内容】 小説に為されている作家の工夫を読み解く。		●							●
	西村幸子	『 自然循環と人間 』 【教育内容】 国語総合教科書「手技に学ぶ」より、人間の共同体が平和に過ごすためには、衣食住の自給による独立が根本条件であり、自然の循環の中で人間はその技術を深めてきたことを学習した。人間が豊かさや便利さを求めるあまり、自然の循環を無視した技術を押し通すと自然破壊へとつながることを読解した上で、実習などで身近に学んでいる一つ一つの技術すべてに意味があり、どのように今後に生かしていくかを考えさせることを目標とした。	●	●	●			●			●
	大淵 努	『 世の中に自分も関わっているということ 』 【教育内容】 2年生は修学旅行の平和学習の続きを行っている時期と重なった。過去のことを過去のこととして他人事のように見るのではなく、現在と重ね自分の行動原理に学習した事を組み込むよう教えていた。これは環境問題も同じであり、自分が積極的に関わることがカギであると伝えた。また、このように環境問題を考えられるのは「平和」であることが絶対条件であり、色々な意味で「戦争」こそが最大の環境破壊であると伝えた。現在の世界情勢はイスラム国をはじめ不安定化が進んでおり、これからの世界の担い手である若い人（イコール生徒）が平和と環境の担い手であることを伝えた。			●			●			●
	森 卓俊	『 福島第1原発による海洋汚染水の問題について 』 【教育内容】 福島第1原子力発電所からの放射能汚染水が、止水対策の効果もないまま、現在も海に流れ出ていることについて。それが地球や人類にとってきわめて重大な環境問題であること。「企業活動の過程における環境負荷の問題」という観点から見ても、重大な問題であること。	●	●	●	●				●	●
数学	松岡嘉典	『 大気・海洋汚染が招く環境破壊 』 【教育内容】 基本的に昨年の繰り返しになりますが、全クラスに就職試験対策の一般常識として海洋汚染、大気汚染に関する項目を記述形式で取り入れ、解答時に解説を交えながら理解させる。前回は、京都議定書に関する試験でしたが、今回は加えて異常気象に至る経緯を説明しました。また、それ以外に数学という環境に少し距離をおいた教科では、時間を捻出することが困難であったので、今回は、理解の充実を図るため、1回のみLHRで時間を取りました。			●		●			●	

2014環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
数学	田辺 淳	<p>『 農芸祭のゴミ処理 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>本校の文化祭では大量のゴミが毎年出ている。そのため、近年では非公開の日には再利用する器を用意し、洗浄して再度使用している。しかし、公開日には紙コップやプラスチックなどのゴミや生ゴミが大量に出てきている。</p> <p>ゴミの分別時の工夫として、同じ器を固めて重ねることで廃棄するときの容積を減らすことを考えた。現在では燃えるか燃えないかで分別している。これでは、割りばしや紙コップが一緒に容積が増え、袋の枚数や容積が増え、環境問題を考えるうえではよい方向には向かない。廃棄するゴミをコンパクトにすることでISOに対する考え方をより意識が高まると考える。これをゴミ処理担当の生徒とともに考え実践していきたいと思う。</p>		●	●				●		
	山本 絵理	<p>【教育内容】</p> <p>①日本は再資源（アルミ缶やペットボトルなど）の回収率が世界でもトップクラスである一方で ごみ処理場の数もトップクラス、一人あたりのごみの排出量もトップクラスということ ②欧州では、「3R」にREDUSEを加えた「4R」でごみ減量に成功している。日本にはこのREDUSEが欠けているので大量消費国のまま ③昔から言われている「物を大切に使う」ことがREDUSEにつながるんじゃないでしょうか。と自分の感想も含めて話しました。そしてこういう話では、%や割合が出てくるので正しく理解するためにも、今一度それがどういうものか確認しましょうとして%と歩合の説明をした後、小数・分数・%・割合の換算を練習しました。</p>		●				●			
	清水実華	<p>『生活の舞台としての気候』 『生活の様式としての文化』</p> <p>【教育内容】</p> <p>2学期11月まで、熱帯～寒帯の5気候帯を取り上げ、気候が私たちの生活に影響を与えていること、また、私たちの生活が気候に影響を与えていることを学習した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気候に合わせた住環境、食文化 ・灌漑による砂漠化の進行(アラル海の消滅など) ・熱帯林の減少等 <p>気候環境の変化が現在、さらに今後の生活にどのように影響していくかを考えた。</p> <p>2学期11月以降は、文化について取り上げ、その中で、現在の消費文化について考えた。</p>		●	●					●	●

2014環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
社会	古川 稔	<p>『 明治時代の環境問題について 』</p> <p>【教育内容】 日本史Aの授業に関連して、明治時代の環境問題について講義を行った。 富国強兵・殖産興業のスローガンのもと、急速な工業化・近代化がばい煙等の公害を引き起こし、技術的に効果的な対策がとれず、示談や和解、被害者の移転という形でしか解決できなかったこと。また、その後の戦時下においても工業生産が、終戦後も復興が優先され公害は戦前から継続していたこと。さらに高度経済成長期に入りさらに公害は深刻化し、四大公害訴訟に代表される深刻な状態に堕ちてやっと環境対策が取られるようになったこと等を説明した。 現在の中国における大気汚染についても関連付け、地球規模で考えるべき課題と認識する必要性を説いた。</p>									
	下村 尚	<p>『 カップラーメンから見る現代の諸課題 』</p> <p>【教育内容】 カップラーメンの具材の産地を地図帳から調べ、日本は輸入大国だと理解させる。 カップラーメン1つを作るために必要なフードマイレージも調べ、食物自給率が39%であることを深刻にとらえさせ、もしも輸入がストップしてしまったらどうなるのかも学習した。 フードマイレージが増えるということは、輸送の際に二酸化炭素が増加すること、養殖施設をすることによって、貴重な自然を壊していることを理解させ、環境問題に直結することを学習した。今後の日本の食のあり方、輸入に頼っているのにも関わらず、大量の食糧を廃棄していることも人類の課題として考えられるような学習をした。</p>	●	●	●		●		●	●	
社会	野田 学	<p>『 新しい人権 環境権 』</p> <p>【教育内容】 日本では、高度経済成長のなかで、環境を破壊する公害が大量に発生し、人々の生命や健康がそこなわれるという事態がうまれた。いわゆる四大公害訴訟では、いずれも原告住民側が勝訴したものの、損害賠償という事後の救済では、失われた生命や身体の被害はとりかえしがつかない。 そこで、生命や健康などを守るために、良い環境を享受する権利（環境権）を基本的人権の1つとして位置づけ、この権利にもとづいて環境破壊行為の差し止め、または予防を請求できるようにすべきだという主張がなされるようになった。 しかし環境権は、これまでの裁判所の判決のなかでは、まだ明確に認められていない。ただし、大阪空港公害訴訟の高裁判決（1976年）は、実質的に環境権に配慮した判断をした。その根拠は幸福追求権（憲法第13条）、生存権（憲法第25条）であったことを確認させたい。</p>		●	●			●		●	

2014環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
理科	鈴木伸治	<p>『 ゴミ分別回収が行われる理由（資源の再利用、ごみ廃棄場所不足の解決、ゴミの減少）を知り、将来に向かって自分たちの世代の問題であると考え、資源の再利用について改善・改良の努力ができるようになる。』</p> <p>【教育内容】</p> <p>1) DVDの映像を見る。</p> <p>2) 映像の内容は、 1992年6月に放送された、NHKスペシャル『破局回避のシナリオ』を見る。</p> <p>① 大量消費社会は変えられるか。</p> <p>② 国境は越えられるか</p> <p>3) 映像の内容をメモして、感想・意見を書く。（レポート用紙あり）</p> <p>4) 現在から20年以上も前にドイツに作られたゴミ回収の仕組み「グリーン・ポイント」と「DSD社」が紹介される。日本の現状と比較し、意見、感想を書く。</p>		●	●	●	●			●	●
	宮崎智文	<p>『 リサイクル 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>「科学と人間生活」において、プラスチックの種類について授業を行った。その中で、</p> <p>① ペットボトルについて、その主成分がポリエチレンテレフタレートであることと、日常よく見かける略称PETの関連性を説明した。それに付随し、PETは再生可能であり、融解し繊維状に加工することでフリースの原料となることを説明した。</p> <p>② 生分解性プラスチックについて簡単に説明し、今後様々な生活場面で登場するかもしれないことを話した。</p>		●		●	●		●		
	川口智美	<p>『 実験時における班別活動と、反応物の分別回収 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>液体窒素を用いて極低温の世界を体験することで、物質の三態変化を知ると共に、実験後のゴミの分別を徹底させた。実験を4人一組の班で行い、結果を予測しながらお互いが協力して実験に取り組むよう指導した。実験後に出るゴミについては、種類ごとに回収場所を設け、班で協力して分別させて回収した。また、再利用が出来る材料については、種類ごとに回収して次の実験に再利用した。器具の洗浄についても、節水に努めさせた。</p>	●	●	●	●			●	●	
	伊藤美有	<p>『 7R 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>3RのRは“Reuse:再使用” “Reduce:減らす” “Recycle:再資源化”の頭文字であること、また意味を確認した。3Rは浸透してきたが、この3つのRの他にも、</p> <p>“Refuse:拒否する”（ごみになるものを拒否する）</p> <p>“Repair:修理する”（壊れても修理して使う）</p> <p>“Rethink:再考する”（本当に必要なものか考える）</p> <p>“Reform:改良する”（着なくなった服などを作り直す）</p> <p>の7Rの考え方があることを学習した。</p>			●		●	●			

2014環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
英語	藤原寿美子	『 安藤百福：インスタントラーメンの父 』 【教育内容】 安藤百福氏が日本初のインスタントラーメンを発明し、1970年代に日本で大ヒットさせた。世界中の人にも食べてほしいと思いでんぶりがなくても食べられるカップ入りのラーメンを作ろうとした。ふたの開発に苦労したが、飛行機の中で出されたナッツの入れ物からひらめき、完成させた。 このような安藤氏の苦労話を英語で読み、身近なものからヒントを得る発想力、何歳になってもあきらめない強い精神力などを学んだ。	●	●	●	●	●	●		●	●
	津田東二	『 What does 3R stand for? 』 【教育内容】 授業当初、期末考査前だったため数分で3Rについて話をしました。そしてReduce: リデュース: 減らす; Reuse: リユース: 繰り返し使うこと; Recycle: リサイクル: 再資源化の意味と発音を確認しました。				●	●			●	
保健体育	加藤友理	『 幸せを捨てる・幸せを拾う 』 保健の授業を通して、人への思いやりについて話をした。 普段落ちていくゴミも、「ゴミを捨てる者は幸せを捨て、ゴミを拾う物は幸せを拾う」という 少しの考え次第で自分のためにも人のためにもなることを話した。	●		●	●		●			●
	草野直樹	『 ごみを拾う 』 【教育内容】 授業や部活動の中で体育館や周辺に落ちているごみの問題や体育館シューズ等の使用方法について作業を行った。	●					●		●	
	松本直之	『 1杯(180ml)の味噌汁 』 【教育内容】 自然界には自浄作用と呼ばれる働きがあるが、1杯の味噌汁を川に流すと、魚が住める水質に戻すためには約1,400ℓの水が必要だといわれている。普段、なにげなく台所から流しているものを例にして魚が住める環境に戻すためにはどれぐらいの水が必要かを理解させる。そして、不要なものを台所から捨てない、不要なものを出さない生活を心がけるように促す。				●		●			
	山下浩司	『 自己犠牲と協力 』 【教育内容】 体育授業時の用具準備や片付けを協力して行うことによって他人を思いやる力や、協調性を養い環境教育による目当ての一つである思いやりの気持ちを持って人のために動ける力を身につけられるよう指導した。	●					●			

2014環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
家庭	安田生子	<p>『 環境について意識しながら、調理実習を行おう 』</p> <p>【教育内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別を徹底させる。 ・食品の廃棄部を減らす。 ・食べ残しをしないように指導する。 ・調理実習において、あらかじめ作業工程をイメージし、時間・電気・水・ガスの無駄を減らすように心がけさせる。 ・お互いに声を掛け合い、助け合うように指導する。 ・「フードマイルージ」という考え方を説明し、食品を購入する際の選び方を考えさせる。 	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	中川伸子	<p>『 環境問題と地産地消 』</p> <p>【教育内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農芸祭において、校内の卵、三重県産のお茶・小麦粉を使用することを確認する。 ・地元の食材を使うことで、どういう利点があるか考える。「新鮮」「おいしい」「安い」「地元の農家を守ることができる」など ・地元の食材を使うことが、「環境にも優しい」ということを知る。 →輸送にかかるCO₂が削減できるから。 ・日本の自給率について知る。 ・TPP問題について知る。 			●		●		●		
家庭	杉野仁美	<p>『 染色実習における合理的な動き方について 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>化学染料(リアック染料)を使った染色の方法を学び、染色には水が不可欠であること、環境負荷を考慮して節水するためにはどのようなすすぎが良いのか、アルカリ助剤の洗い流し方を考えさせる。</p> <p>また、狭い実習室の限られた流しで23名が同時に染色するために、心掛けなければならないこと、気持ちよく譲り合わせるためにどのように行動すべきかを実習を通して身に付けさせる。</p>	●	●	●	●	●	●			●
	百々由里子	<p>『 卒業製作と環境教育 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>2年次から、作品作りの際には無駄なく布を裁断することを考えて型紙を配置するように、継続的に声をかけているが、高校生活最後の作品となる卒業製作の中でもそれがきちんと意識できているか、実行できているか改めて授業の中で確認をした。それとともに、自分の作品作りが計画通り進んでいるか、また計画通り進んでいない場合はファッションショーに向けてどのように計画を練り直すかなどの確認も行った。</p> <p>さらに、農芸祭でのファッションショーという学習成果発表の場に向けて、リーダーを中心に各係がそれぞれに連携を取りながら、どうしたら自分たちのイメージするステージにすることができるのかを話し合った。</p>	●	●	●		●	●			●
	曾野亜希子	<p>『 安全・安心・快適な住まい 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>高齢者、障がい者が生活しやすい住環境について学習した。さまざまな身体状況を理解し、家庭生活においてどのような配慮が必要なのかを考える。特に、高齢者や障がい者の身体状況については、それぞれの身体状況で不便と感ずることや事故が起こる状況をイメージし、必要な配慮や快適な住環境について学ぶ。</p>	●	●	●			●		●	●

2014環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
	佐藤貴子	<p>『 社会福祉援助技術 レクリエーション 』</p> <p>【教育内容】 社会福祉サービス利用者にとってのレクリエーション活動を学習するなかで、日常生活と環境の関わりを理解し、自ら実践できる力を持てるようにする。 具体的には、自立生活支援に必要なレクリエーション計画をたてる場合や、レクリエーション活動を行うときに、環境を考え、身近な物品の利用でレクリエーションの題材や材料を創意工夫できるようにする。</p>		●		●	●	●	●	●	
	疋田美香	<p>『 agri ロマン四日市サルビアさんによるおせち料理実習を通して 』</p> <p>【教育内容】 本校では、農業を営まれている四日市在住の女性団体（agri ロマン四日市サルビア）から毎年おせち料理をご指導いただいています。このおせち料理実習では地元で採れた野菜を使用し食材を無駄なく利用しています。例えばだしをとったあとの昆布や鰹節は細かく刻み佃煮にしています。 普段の実習時に比べて、たくさんの調理を行うので水や電気、洗剤も多く使用するので節電・節水に心掛けるように指導した。ごみもできるだけ出さないように心掛けるように伝え無駄をなくすようにした。 地域のご年配の女性と一緒に実習することを通して、伝統食を学び次世代に良い環境を残していこうと考える思いやりの心、また環境問題を自分の事として考えることができる力が身につけることができると考える。</p>	●		●	●	●	●	●		
家庭	土山真未	<p>『 古着のゆくえ 』</p> <p>【教育内容】 ○行政回収で出した衣類は、どのように再利用・再資源化されるかを学ぶ。 ・ウエス（工業用ぞうきん） ・反毛（繊維に戻してフェルトや綿にし、自動車等に再利用される） ・国内店舗用 ・輸出用 ○行政回収に衣類を出す際の注意点を理解する。 ・ポケットの中身を確認する ・濡れた衣類はごみになるので雨の日には出さない等 ○以上の学習を通して、古着をごみではなくリサイクルで出す意義を知り、行動するよう取り組む。</p>	●	●	●	●				●	

2014環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
	兼久裕美子	<p>『 これからの消費生活と環境 』</p> <p>【教育内容】 限りある資源を循環させて使い続ける循環型社会、低酸素型社会、自然共生社会の3つの社会が実現して初めて、次の世代に負の遺産を残さない、持続可能な社会を形成することができることを知り、循環型社会の目指したライフスタイルを身に着けることの大切さを知る。 本校におけるごみの分別をはじめとして、節水・節電、環境委員の活動などは、本校が認証取得しているISO14001の環境マネジメントシステムの一環であることを知り、実践を続けていくことの重要性を指導した。</p>		●		●	●		●		
	細野 歩	<p>『 ゴミをいかに削減するか、その大切さ 』</p> <p>【教育内容】 ・調理実習室などで出るゴミ、特に生ごみは自分たちの努力で減らすことのできるゴミである。 しかし、現実には食べられる箇所もゴミとして廃棄してしまう場合も多い。 そのことが、環境にどのように影響するのか、また、どれだけもったいないことなのか生徒に話をした。今まず、私たちができることとして、①ゴミの分別の徹底 ②材料の無駄をなくす ③洗い物をするときに洗剤を少なく洗える様、工夫する。が考えられることを話し、今後の実習で実践していくことを生徒全員と共有した。</p>	●		●	●	●	●	●		●
	森下善郎	<p>『 3Rの意義と目的 』</p> <p>【教育内容】 「3Rの意義と目的」 2000年に制定された循環型社会形成促進基本法が形成され、それに伴い各種のリサイクル法が実施をされた。2001年に施行された家電リサイクル法は消費者が費用を負担し製造者が再資源化するということを理解させた。また、政府は3Rと称し、リユース、リデュース、リサイクルを推進していること、その中でもリサイクル、リユースではごみは減らない、ごみを減らすにはリデュースしなければならないことを理解させた。</p>				●					
	奥田 毅	<p>『 ブロイラーのと殺実習から学ぶ 』</p> <p>【教育内容】 自分たちが普段から食べている鶏肉の成り立ちについて、と殺実習を通して学び、思いやりの力、命の大切さ、成り立ちを体験することにより、食べもの大切さ、その裏側にある様々な背景について学ぶ。 学校で飼育したブロイラーを自らの手でと殺、解体（今回は中抜き）を行う。</p>	●		●		●	●			●

2014環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力	
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見
農業	城 秀教	<p>『 三重県がすすめている「みえの安心食材」認定の取り組みについての学習 』</p> <p>【教育内容】 販売情報コースでは平成16年度からマコモタケの栽培研究を行っている。マコモ栽培には登録除草剤がないために除草作業は全て機械・手作業で行っている。また、元肥や追肥についても「みえの安心食材」認定基準に従いより環境のことを考え化学肥料を抑えた栽培を行っている。これら一連の取り組みについて、マコモ植え付けから学習してきているが、収穫を終え、もう一度内容を確認し、環境に対してより高い意識を持たせる授業を行った。</p>		●			●		●	
	藤川哲哉	<p>『 持続可能な開発のための教育 ESD 』</p> <p>【教育内容】 地球環境問題、貧困、紛争などさまざまな課題を解決するためには人づくりが重要として、2002年のヨハネスブルグサミットにおいて日本が「持続可能な開発のための教育の10年（ESDの10年）」を提案し、同年の国連総会にて、2005年から2014年までの10年間をESDの10年とする旨の決議案を提出、これを受け、国際的な取組として、現在ESDは各国で進められていること。 名古屋で今年サミットがあったことなど</p>						●		●
	竹村保範	<p>『 遺伝子組み換え技術 』</p> <p>【教育内容】 近年、三重県のなばなにおいて輸入された組み換えなばなの交雑種が自生しているという報告がされている。遺伝子組み換え作物の生産量は諸外国で増加している。反対に、遺伝子組み換え作物の生産を禁止している国もある。そんな中、日本ではどのような対応がされているのか。 遺伝子組み換え作物について、背景や歴史、基本的な技術を教えると同時に、これからの遺伝子組み換えの可能性と、その影にある不安要素、現実には起きている問題などを説明した。 最後に、これから遺伝子組み換え技術と、どのように関わっていけばよいのか、遺伝子組み換え技術はこれから先、人間にとって必要なものなのかなど、自分の意見を考えさせる。</p>		●	●					●
	氏本敦之	<p>『 校内で栽培した水菜の利用 』</p> <p>【教育内容】 食物経営コース3年生が「生物活用」の授業で2学期を通して栽培した水菜を農芸祭のコース食堂「まんぶく食堂」で提供する肉うどんに入れ、生徒や来場いただいたお客様にふるまった。 「生物活用」では、年間を通して様々な野菜作りを行っており、今回は栽培した野菜を自分たちで消費するのではなく、農芸祭に来場していただく方に向けて提供するものとして栽培を行った。この取り組みは昨年度に続き2回目である。昨年度の反省点などを生徒に伝え、今年度も質の良い、消費者の立場に立った「商品」を栽培するという目的で、栽培管理や収穫を行った。また、今年度は収穫してから少し時間をおいて提供を行うため、収穫後の鮮度管理や品質保持についても理解させた。 自分たちが栽培した野菜を提供することで、販売コストを大幅に抑えることにつながると理解させた。ただ、昨年度は全食分をまかなうことができたが、今年度はわずかに足りなかったため、来年度は品質を維持して増産をめざしたい。</p>		●	●		●	●		●

2014環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
	山口 治秀	<p>『 温室効果ガスについて 』</p> <p>【教育内容】 国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が、地球温暖化の深刻な影響を避けるために、今世紀末に温室効果ガスの排出量をほぼゼロにする必要があると指摘した統合報告書を発表した。このことに関する新聞記事を利用して、農業によることも含めた温室効果ガスの排出について、まさしく人ごとではなく、また緊急を要する問題であることを再認識した。</p>		●	●			●		●	●
	駒田周昌	<p>『 塩分濃度の測定法 』</p> <p>【教育内容】 単元「無機質の測定法」塩分濃度の測定法 モール法 塩分濃度測定方法の説明にあたり、人体への塩分の影響と、環境への塩分の影響を話した。 人体には1日に成人で10g摂取で十分であり、それ以上摂ると悪影響があること、塩分の環境面への影響もあり、農薬から起きる塩類集積などの被害を話をした。</p>			●		●				
	長屋 晃	<p>『 実験に用いた試薬品の廃棄とゴミ分別の徹底や節水への取り組み 』</p> <p>【教育内容】 1. 1学期に行った各試薬品の廃棄の仕方について再度徹底させた 酸性の性質を含んでいるもの、アルカリ性の性質を含んでいるもの、重金属をふくんでいるもの。 これらの試薬を、流し台に流してしまったり、混合させたりしまわないように、それぞれを分別して、決められたところに廃棄するようにさせた。</p> <p>2. 1学期に指導したゴミの分別について再度徹底 実験で出た反応物や生ごみ、可燃物、ビニール類、ガラス器具の割れ物など、分別の徹底を行うことの意識付けを実験の時間内においても、しっかりと持たせている。</p> <p>3. 節水 実験器具の洗浄などを行うとき、節水を心掛ける意識を持たせている。</p>					●	●		●	

2014環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力			
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質	
農業	田中美奈子	<p>『 食品にかかわる人の資質と国際標準化機構 』 【教育内容】 うそをついたり、ごまかしたりする人が、「この商品は、安全でおいしいですよ。」と言って売っていたものを、自分は食べるだろうか？ 消費者が安心して食品を購入するために、製造方法や表示情報に基準（食品の安全性確保を目的とした法律など）を定め、それらが適切に製造され、表示されているかをチェックする体制（遵守されているかどうかを監視する機関）が設置されている。しかし、法律で定めた基準や監視体制があっても、それを守るといふ行動に至ってなければ、信用されない。「決まりを守った信用される行動をとることで、信用や信頼を得ることができる」ということを再確認した。 また、食品の安全性に対する消費者の関心が高まり、国際的・国内的な統一基準が順次整備され、品質の保証や製造業者の責任の明確化、監視体制の強化が進んでいる。 製品の品質、仕事の進め方、管理の方法などを標準化し、品質が一定水準以上の製品を製造することを目的にした「品質管理および品質保証システムであるISO9000s」、2005年には「食品安全を目的としたマネジメントシステムISO22000s」が発行され、導入している企業も増えてつある。 食品の流通についても、食糧の不足している地域へ、その国の人が安心して食べられる安全な食品を、安定して供給できるよう、考えていってほしいと話をした。</p>				●	●	●	●	●	●	●
	宮下 崇	<p>『 都市緑地計画 』 【教育内容】 都市緑地の様々な機能、効用について学習し、それがあつことでわれわれの生活にどれだけの恩恵をもたらしてくれているかを理解することができた。</p>		●								
	河村 護	<p>『 エネルギー問題 』 【教育内容】 DVD「風力発電の島」を鑑賞して脱原発と自然エネルギーの利用とこれからの日本のエネルギー問題について考える。 DVDの内容 NHKの番組を録画したもの。デンマークのロラン島ではすべての電力を風力発電で賄っている。 以前、この島には原子力発電所の建設が計画されたが、住民は建設に反対し政府との話し合いで、建設は中止になった。その代わりにロラン島の地形と自然を利用した風力発電の開発に取り組み、すべての電力を風力発電で賄い、さらに余剰電力を売電するまでに成長した。この島の取り組みと住民たちの生活について紹介した番組。</p>		●	●		●	●		●	●	

2014環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
農業	前田竜矢	<p>『環境月間とは』</p> <p>【教育内容】 環境月間を開始するにあたり全校生徒に次の2点について話をした。 ① 環境月間を設定した理由 ② 農芸高校の考える環境教育とは 環境月間を設定した理由は2つである。11月は農芸祭があり他の月の倍の可燃ごみが出ている事実がある。また準備で使用する教室等が散らかりやすい。展示や各種催しにおいてむやみにゴミを作らないという意識、そして校内の環境美化が保たれる意識を全校で育みたいという思い。 そして農芸高校の考える環境教育を授業で実現するということである。一般的に環境教育は理科や社会でアプローチする教育と認識されるが、農芸高校では想像力・行動力・理解力という3本の柱を設けることで、どの教科でも環境教育が実施できるようになっている。図らずとも普段の授業が本校の環境教育となる形になっている。 全校集会では私自身が体験した車の故障時に助けてくれた2人の女性の話をした。困っている人を見つけたときに自分事に「想像」し、助けるという「行動」ができる力を育むことも農芸高校では環境教育であることを伝えた。 最後に今年も農芸祭時にはリユースの食器を使用することで可燃ごみの量を減らす取り組みを継続することも伝えて環境月間のスタートとした。</p>	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	森谷洸介	<p>『自然公園法について』</p> <p>【教育内容】 我が国、日本には優れた自然の風景地の保護とその利用の増進を目的とした[自然公園法]という法律がある。その法律の中でも風景地の優れている程度により、国立公園・国定公園・都道府県立自然公園と分けられている。 今回は、最も優れている[国立公園]が日本全土に31カ所存在する。国立公園31カ所の名称と特徴をしっかりと学び、今後、自分達がどのようにして日本に存在する優れた風景地の保護・利用増進に関わることが出来るかを4人組のグループを作り、話し合わせ、各グループの意見を聞いた。 最後に自然公園法誕生の話をした。</p>		●	●			●		●	●
	新美弘毅	<p>『商業地の緑化』</p> <p>【教育内容】 生物活用の授業の中で、大規模商業施設の造園計画図の作成に取り組み、地域の環境を守るために何が必要なかを考えさせてきた。樹木一つをとっても高木、亜高木、低木を植栽することによって多種多様な生物が集まってくる。人だけでなくそこに住む様々な生き物の視点に立って、商業地の開発をする必要があることを伝えた。 これまで、課題研究等で地域緑化に協力してきたが、そのことがどれだけ理解できたか確認できるテーマにもなっている。</p>	●	●	●			●		●	●
	松本卓也	<p>『萌芽更新と里山林』</p> <p>【教育内容】 自然環境コース開講科目「森林科学」において、萌芽更新について学習した。萌芽更新とは、樹木伐採後の切り株から発生する新しい芽（萌芽）を成長させることによる森林の更新方法である。この萌芽更新は、地拵えや植え付けなどの作業を行う必要がないため森林更新のコストがかからないこと、一方、その育林方法からまっすぐで太い建築用材の生産には向かないことなどを学習した。里山林でクヌギやコナラなどの樹種が多く薪炭材としての用途が多いことは、この萌芽更新の特性を生かし人々が身近な環境を有効に利用してきた結果であることを学習し、里山の保全あるいは復元のためには何が必要かを議論した。</p>	●	●	●			●		●	●

2014環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
農業	生川正秋	<p>『 環境に関する考え方の変化（なぜ今、共生の時代なのか） 』 【教育内容】 〔授業の目的〕 現代は、「共生」の時代だといわれる。「環境保全」と「開発」を両立させていくのは当たりまえであり、「可能」であるという世の中に現在の高校1年生は生まれた。生まれながらに「共生」の世の中を生きてきた彼らに、過去はそうではなかったことを理解させ、さらに遡って江戸時代以前の日本人の、宗教観に支えられた環境保全に触れることにより、日本人が、古くから環境保全を行ってきたこと、環境破壊の時代があったこと、そして、「共生」の時代が生まれたことを理解し、「なぜ共生なのか」「これから人類はどうしていくべきか」「今後、どのような世の中になっていくのか」について考え、行動していく基礎としたい。</p>	●	●	●	●	●	●	●	●	
	鎌田高行	<p>『 環境理解 』と『 地域での存在意義 』 【教育内容】 教育活動を通じて、日常的に環境への意識を定着させる 環境教育を通じて、生徒に「創造力」「行動力」「理解力」をつけさせる 環境系の教育内容を活用すれば地域の農業振興に寄与できることを気付かせる</p> <p>科目「課題研究」「総合実習」にて、主に学んでいる環境を幅広く活用する工夫 明確な目標設定を行い、意義を理解させ、意識を高める工夫をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域貢献を考える（地域連携活動から） ・ 学校の機能を理解する（高齢農家支援活動） ・ 意図をもって学習する（自己の活用と向上心） ・ 農業の分野間連携や、社会での構成要素などを理解する 	●	●	●	●	●	●	●	●	
	佐藤裕毅	<p>『 光合成速度と環境要素 』 【教育内容】 植物の光合成量を、単位葉面積・単位時間あたりのCO₂吸収量で測定した指標を「光合成速度」。光合成速度と光強度の関係は、光強度が上がるほど光合成速度は早くなる。ただし、ある光強度を超えると、それ以上光合成速度が早くならず頭打ちとなる。この光強度を光飽和点という。 光飽和点は、植物を栽培する圃場（露地群落・施設栽培など）においては、通常CO₂濃度が不足することが制限要因となっている。この場合には、CO₂を施用すること（換気やCO₂施肥など）によって光飽和点を上昇させ、光合成速度をさらに引き上げることが可能になる。 植物の持つ光合成能力が効率よく発揮できる環境を用意することで、植物の生長をさらに引き出すことができることを理解させる。</p>		●			●			●	

2014環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
農業	出口幸代	『 野菜の栽培・管理についての施肥・病虫害防除について 』 【教育内容】 野菜栽培における施肥や病虫害防除における注意点について野菜栽培で必要となる肥料について、どのような時期にどのような肥料が適しているのか、またその種類等を学習する。また病虫害防除において、病気が発生してから対処を行うのではなく、発生を抑える工夫が必要であることや、病気や害虫が発生しにくい環境づくりが大切であることを学習した。 化学肥料や薬剤散布ばかりに頼るのではなく、今後の環境にも配慮した栽培が必要であることの大切さやその管理方法について学習を行った。		●			●	●			●
	岡安壽光	『 芝刈り後の芝・刈込後の枝葉の処理について 』 【教育内容】 一年生の総合実習（管理実習）で芝刈りした芝・刈込した枝葉の処理について考えさせる。 昨年度はチップパー（枝葉の粉碎機）が使って粉碎させることが出来たけど故障の為今年は使用できないのでどうすべきか考えさせる。 以前、椿園に芝・枝葉を敷いた所と敷いてない所比べさせて見せる。（防草効果を確認させる） 芝刈りした芝・刈込した枝葉をゴミとして取り扱うのではなく、利用することで環境への理解を深める取り組みをしていきたい。					●			●	
	金谷達也	『 生産技術コースの実習と環境について 』 『 農芸高校のISOについて 』 【教育内容】 1. 生産技術コース総合実習から環境について考えよう。 ①養鶏、露地野菜、水耕野菜の各実習で環境に配慮すること。していること。 ②節電・節水について ③野菜収穫時に出るゴミ（野菜クズ）（ウレタンマット）の分別 ④水耕温室の仕組みと水耕実習での環境問題 2. ISO14001について、農芸高校の取り組みについて ①ISO14001とは、 ②農芸高校の取り組み（環境目的・目標）の説明 ・総合実習の中で、環境と結びつけた振り返りと考える力をつける。 ・農芸高校が取り組んでいる、ISO14001について理解を深める。	●		●	●	●	●	●	●	
	酒井幸和	『 衛生 』 【教育内容】 環境教育と食品の衛生管理プログラムにおいて一部結びつく点があり、実行させていることは ①排水及び廃棄物の衛生管理 ②施設設備の衛生管理 ③そ族昆虫の防除 以上の衛生教育を実習、当番日に行い環境教育を実施した。				●		●			●

2014環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
農業	三林真弓	<p>『 空き箱の再使用 』</p> <p>【教育内容】 文化祭で草花苗の販売を行うがその持ち帰り用の箱として実習靴の空き箱を利用している。4月に1年生が購入し取っておいた靴箱を組み立てガムテープで補強して箱を作り文化祭の準備をした。 空き箱を再使用することで無駄をなくすことやりサイクル、リユースのことも話しながら実習を行い環境について考えるきっかけとした。</p>					●			●	
	森川 巧	<p>『 無農薬による野菜作り 』</p> <p>【教育内容】 1、農業と環境の圃場実習に於いて、春・トマト、トウモロコシ、秋・ダイコン、ブロッコリーを栽培しているが、殺虫剤を使用せず生徒一人一人に割り箸等を使用させ害虫を駆除させた。 これにより殺虫剤を散布しなくても安全で立派な野菜・作物が出来き、無農薬についての知識意義を持たせる。 2、実習終了後の使用道具・使用器具等の掃除時に使用する水の無駄（出しっぱなし等）をなくし、節水に心掛ける意識を持たせる。</p>				●	●			●	
	岩崎恵理	<p>『 ネイチャークラフト 』</p> <p>【教育内容】 ・校内や近隣で生息する様々な樹木や植物から材料を採取し、植物の特徴や特性を理解させる。 ・植物の葉だけでなく木の実や枝、幹、種からたくさんの特徴を知ることが出来る。 ・採取してきた自然の物を使ってクリスマスツリーなどの置物や壁飾りの作成を行った。 全体的な作品のバランスや色使い、出来上がりの作品を想像しながら作業する。 ・一人で集中して作品を作ることで工夫する力や、個性ある作品の発想などをおこさせる。 ・生徒自身が子供たちに教えることを意識しながら考えることで、自主的に行動する力になる。</p>	●	●		●		●			
	大市一範	<p>『 里山の管理と利用 』</p> <p>【教育内容】 雑木の種子や実生苗を集めて育てることで、自然の状態では育ちにくい苗木を効率よく育て、さらに苗木を植林し雑木林に近づける作業を行った。 また、年間を通して竹林の伐採管理等を行い、廃材として出る竹の活用として、実習で竹炭作りも行いながら里山管理の目的と問題を考えてみた。</p>		●					●		●

2014環境教育実施報告書一覧表

教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
農業	平尾岳之	<p>『 無農薬・減農薬による野菜の栽培 』</p> <p>【教育内容】 無農薬・減農薬による野菜の栽培について講義し、実際に無農薬で野菜の栽培を行った。 キャベツ・ブロッコリー・カリフラワー・ダイコンなどの栽培に際し、害虫の駆除等に農薬を一切使用せず、すべて手で駆除した。</p>		●							●
	鳥越和成	<p>『 造園のイメージアップ 』</p> <p>【教育内容】 ・課題研究の「中学生に造園の良さを伝え隊」班による出前実習。 造園のイメージに乏しい中学生に造園の良さ、面白さを理解してもらうために、生徒が中学校へ出向き、造園のイメージアップに繋がることを目標に実施した。 訪問する中学校によって、樹種や管理状態が異なるため、状況に合わせて目指す完成形をイメージさせ、剪定等を行った。 また普段は教わる側の生徒が中学生に教える立場になることで責任感を持たせ、教えることの難しさを経験させることで、技術面だけではなく自ら考える力も養った。</p>		●			●	●		●	●
	角谷 健	<p>『 食品製造実習における衛生管理について 』</p> <p>【教育内容】 1. 準備、整理整頓、清掃 実習開始時は、爪や白帽子、実習服の着こなし、頭髪などの確認を行い、手洗い指導を徹底した。 器具の整理整頓を徹底させ、5S活動について学習させた。 調理台や床、身辺のものの、清掃を行わせ、衛生面に気をつけるよう話をした。 2. ゴミの分別の徹底 実習で出た生ごみ、可燃物、ビニール類、その他のものなど、分別の徹底を行うことの意識付けを時間内においても、しっかりと持たせている。また、原料ロスを無くすことも心掛けるように注意を払った。 3. 節水 食器具の洗浄などを行うとき、節水を心掛ける意識を持てるよう話をした。</p>				●	●				●
	駒田早苗	<p>『エコバック推進活動』 『本校の商品についての環境問題』</p> <p>【教育内容】 ・販売所に来ていただいたお客様に、本校の環境月間に於けるエコバック使用の活動協力を、本校生徒（販売情報コース販売当番）と一緒に、声掛けを行った。 ・販売袋の使用量削減に、取り組んだ。 ・本校各部門から出されている本校商品が、いかに環境問題に配慮して販売されているかを理解・認識させた。</p>	●	●		●	●	●	●	●	●

2014環境教育実施報告書一覧表

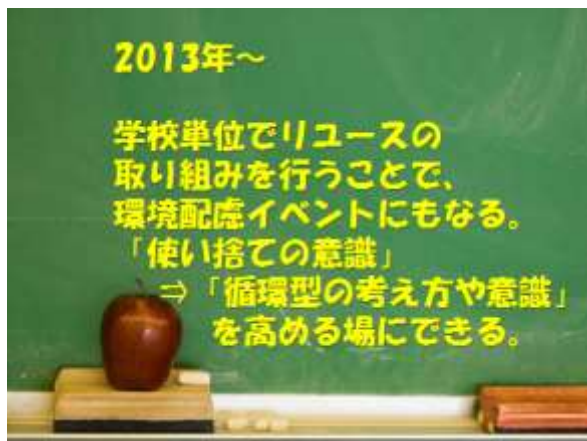
教科	名前	『テーマ』教育内容	想像力			行動力			理解力		
			思いやり	イメージ	自分ごと	自主性	ムダなくす	人のため	ISO	意見	本質
	上島陽祐	<p>『 植物の生育について 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>3号温室横のブロッコリーの管理で、成長してきて葉が隣のブロッコリーの葉と干渉するようになったとき、どのような対処をするべきか。その際、自分のことだけ考えるのではなく、自分の周りの者とコミュニケーションをとり、どのようにしていくべきかを考えるようにさせた。これにより限られた場所でいかに効率よく場所を使い、人に迷惑をかけずお互いが納得していける最も良い方法を見つけ出していけるようにする。</p>	●	●							
養護	磯貝愛恵	<p>『 環境に配慮した、寒さに負けない生活をしよう 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>教室などで暖房器具の使用がない状況や、気温の急激な変化で体調を崩す生徒が多い現状から、暖房などを使わずに気候に適應する知恵を紹介し、各々で体温調節ができることを目的とした働きかけを行った。保健室内に「服の着方や素材を工夫して寒さを和らげる方法」を記載したプリントを配置し、また、保健便りでは身体をあたためる習慣を紹介するという方法をとった。</p>			●	●	●				
司書	市川祥子	<p>『 環境問題、何が問題?? 』</p> <p>【教育内容】</p> <p>①11月の環境月間に合わせて環境問題に関する図書を展示し、図書館だよりで紹介した。今年度は、生活に必要な水や電気について特集し、「蛇口の先、コンセントの先を想像する」ことをテーマとした。また「えほん長良川」からクイズを出題し、身近な自然を感じるきっかけにしてほしいと考えた。</p> <p>②図書委員については、1学期と3学期に図書館の書架や本の清掃活動を実施し、自分やみんなが気持ちよく図書館を利用できるよう、学習環境を整えることの大切さを学ばせた。</p>	●	●	●	●		●		●	

⑥ リユース食器の取り組みの報告

三重県立四日市農芸高校 前田 竜矢

本校の最大のイベントである農芸祭においてリユース食器を使った取り組みも3年目を迎えました。2012年までも模擬店で利用する容器類は可燃物を使用するルールを設け、分別教育を行っていましたが、農芸祭のある11月は他月の倍の可燃ごみが出ているのが現実でした。

そこで2013年から下記の考え方で取り組みを始めました。



リユース食器を使っては？



2012年農芸祭後



2013年農芸祭後



今年は上記の成果を出すことができた反面、右の課題も残りました。三重連絡会をはじめ多方面からの協力により食洗機と食器についてはめどが立ってきました。もうしばらく継続して費用の課題を少なくしていきたいと思います。

そして本校で学ぶ生徒に「使い捨てでなく、使い続けるものを選ぶ感覚」が身につくような啓発を続けたいと思います。

(7) 防災教育（防災訓練）の実施

①第1回防災訓練の実施（2014年9月5日）

全校避難訓練。1年生救助袋滑降訓練。2年生初期消火訓練。

3年生(生産技術コース・生活文化科)の生徒で備蓄米(学校農場米)を使った炊き出し訓練。全校生徒及び全職員分800食を炊き出しました。



②第2回防災訓練の実施（2014年12月8日）

全校生徒及び全職員と河原田地区地域住民17名参加。

防災講話：県教育委員会学校防災技術指導員 渡辺先生により「地震災害の概要と日常の心構え」

救急法講習：「三角巾を使った包帯法」各学年別に実施。校章入り三角巾を全校生徒へ在学中貸与、常に携帯し緊急時に備える。



4. 環境コミュニケーションの推進

(1) Mie子どもエコフェア2014への出展（2014年7月19、20日 三重県環境学習情報センター）

販売ブースで、本校実習成果の紹介と農場生産物の販売。

来場者 4,130名(2日間) 出展ブース 60団体 (主催：三重県環境学習情報センター)

(2) 環境講座「環境工房・花炭をつくろう」（2014年12月6日 四日市市少年自然の家）

自然環境コース教員が講師となって、環境学習情報センター環境講座の「環境工房」を担当。花炭づくりを一般受講者の方へ実施しました。(主催：三重県環境学習情報センター)

(3) みえ環境フェア2014への出展（2014年12月7日 メッセウイング・みえ（津市））

三重県における地球温暖化防止対策を一層推進するため、日頃より環境保全活動を行っている県民をはじめ企業、NPO、学校、自治体の情報を発信し、県民の皆様にご協力いただき地球温暖化防止活動に取り組んでいただくとともに、出展者の交流の場を提供するために、『来て・見て・学んで取り組む！地球温暖化対策』をテーマに開催されました。

本校のISOと環境教育を中心に、パネルと生徒たちの実習成果による作品展示、学校紹介を行いました。(2010年より、5年連続出展)

来場者 約3,000名 出展団体 74団体 (主催：三重県地球温暖化防止活動推進センター)

(4) 環境活動団体交流会へ参加（2014年 2月11日 三重大学 環境・情報科学館）

環境活動団体同士が関係を深め、組合員や地域の方々とのつながりづくりの機会を目的に開催されました。活動団体への寄付金の贈呈式も行われ、本校の活動（環境教育の取り組み、リユース食器の取り組み）に対して、昨年度に引き続き〈特別賞〉をいただきました。また、寄贈品としてリユース食器をいただきました。交流会と合わせて、各団体の活動展示も行われ、本校の活動について展示を行いました。(主催：生活協同組合コープみえ)

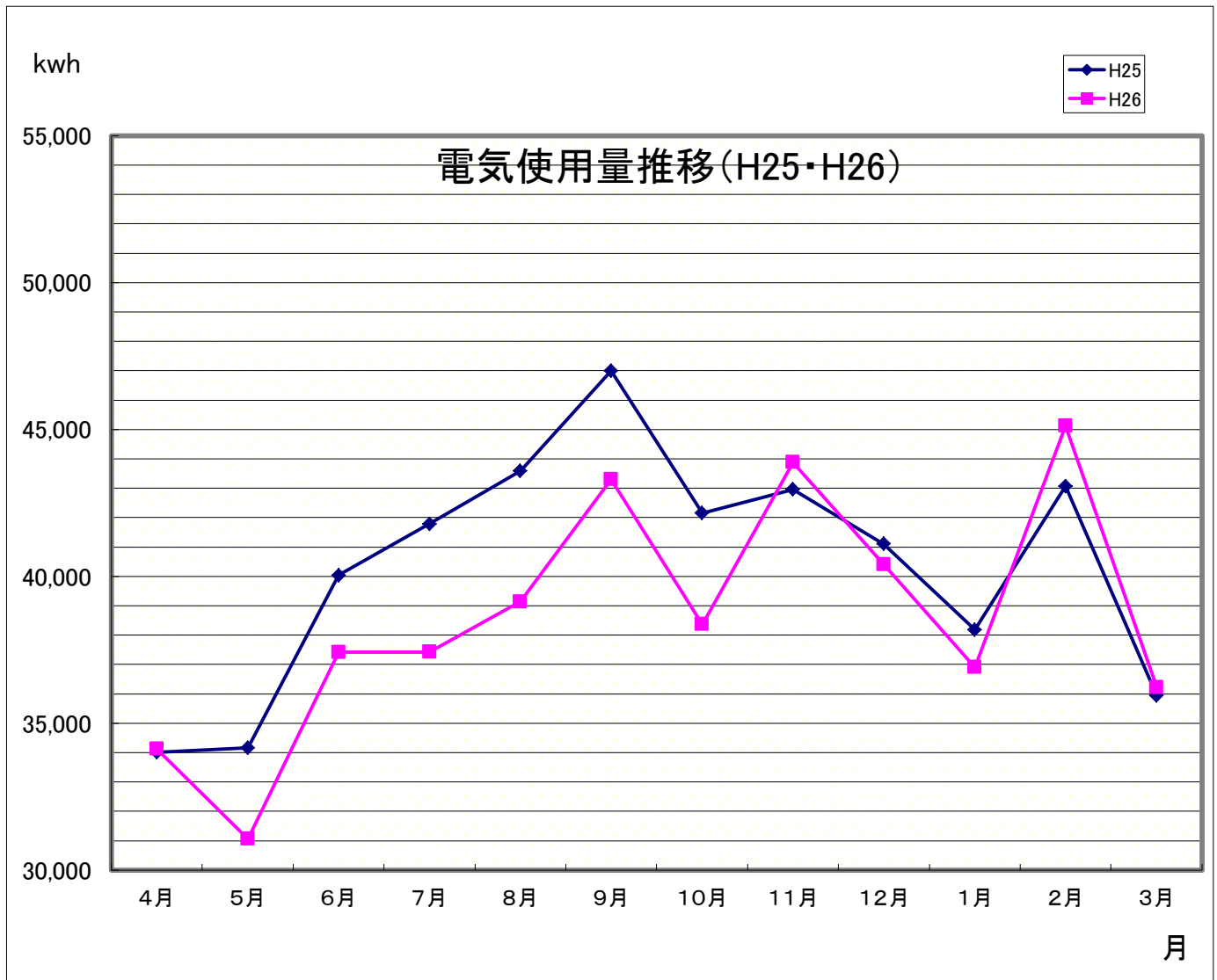
5. 地球温暖化防止の取り組みについて

電気使用量の推移 (H25・H26)

平成26年度目標: 前年比3%削減

単位:kwh

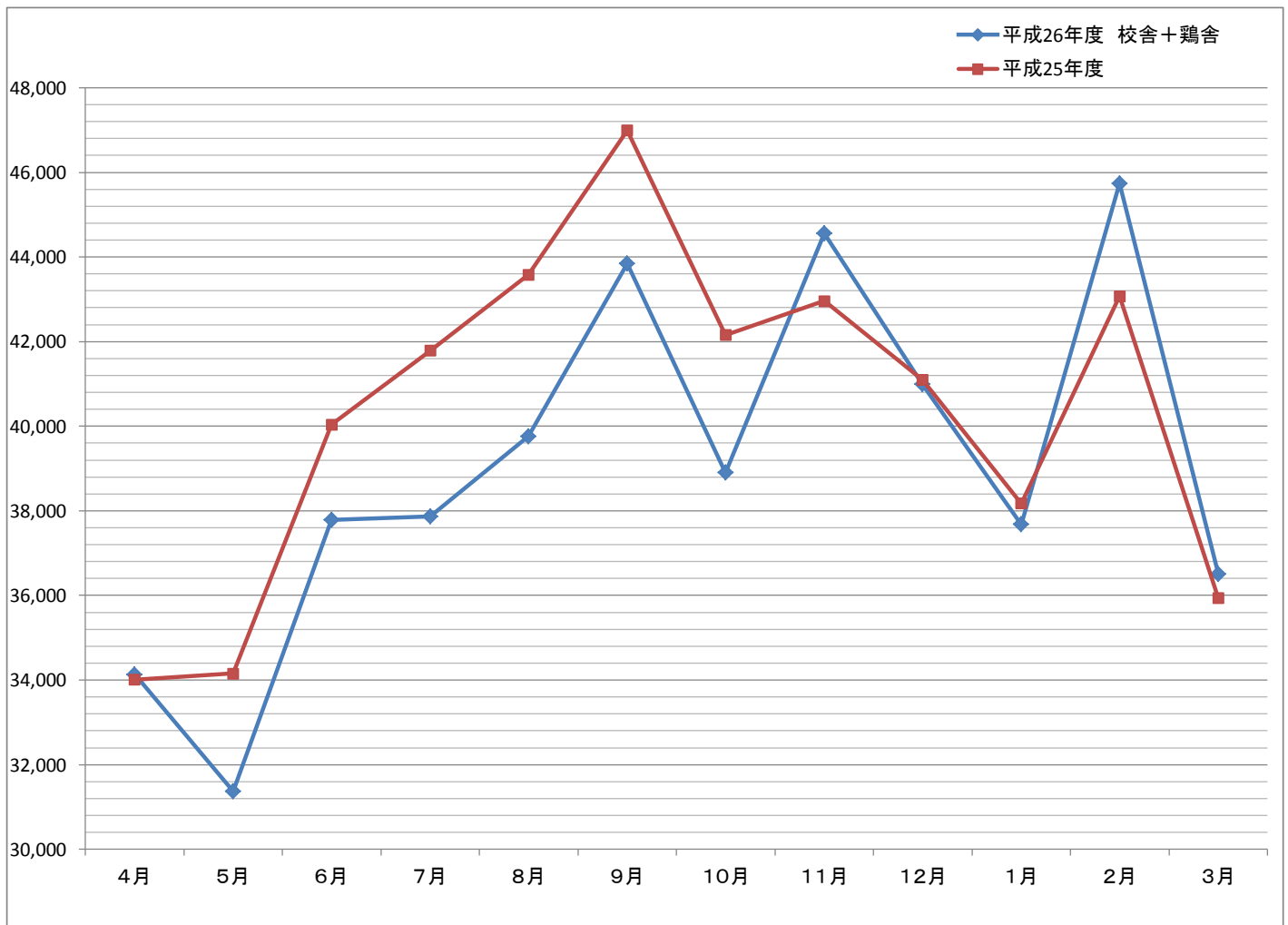
	平成25年度	平成26年度	前年比
4月	34,009	34,127	0.3% 増
5月	34,153	31,067	-9.0%
6月	40,040	37,414	-6.6%
7月	41,788	37,427	-10.4%
8月	43,584	39,136	-10.2%
9月	46,995	43,307	-7.8%
10月	42,159	38,367	-9.0%
11月	42,959	43,883	2.2%
12月	41,103	40,406	-1.7%
1月	38,177	36,910	-3.3%
2月	43,073	45,129	4.8%
3月	35,935	36,222	0.8%
計	483,975	463,395	-4.3%



【参考】校舎+鶏舎 電気使用量の推移

単位:kwh

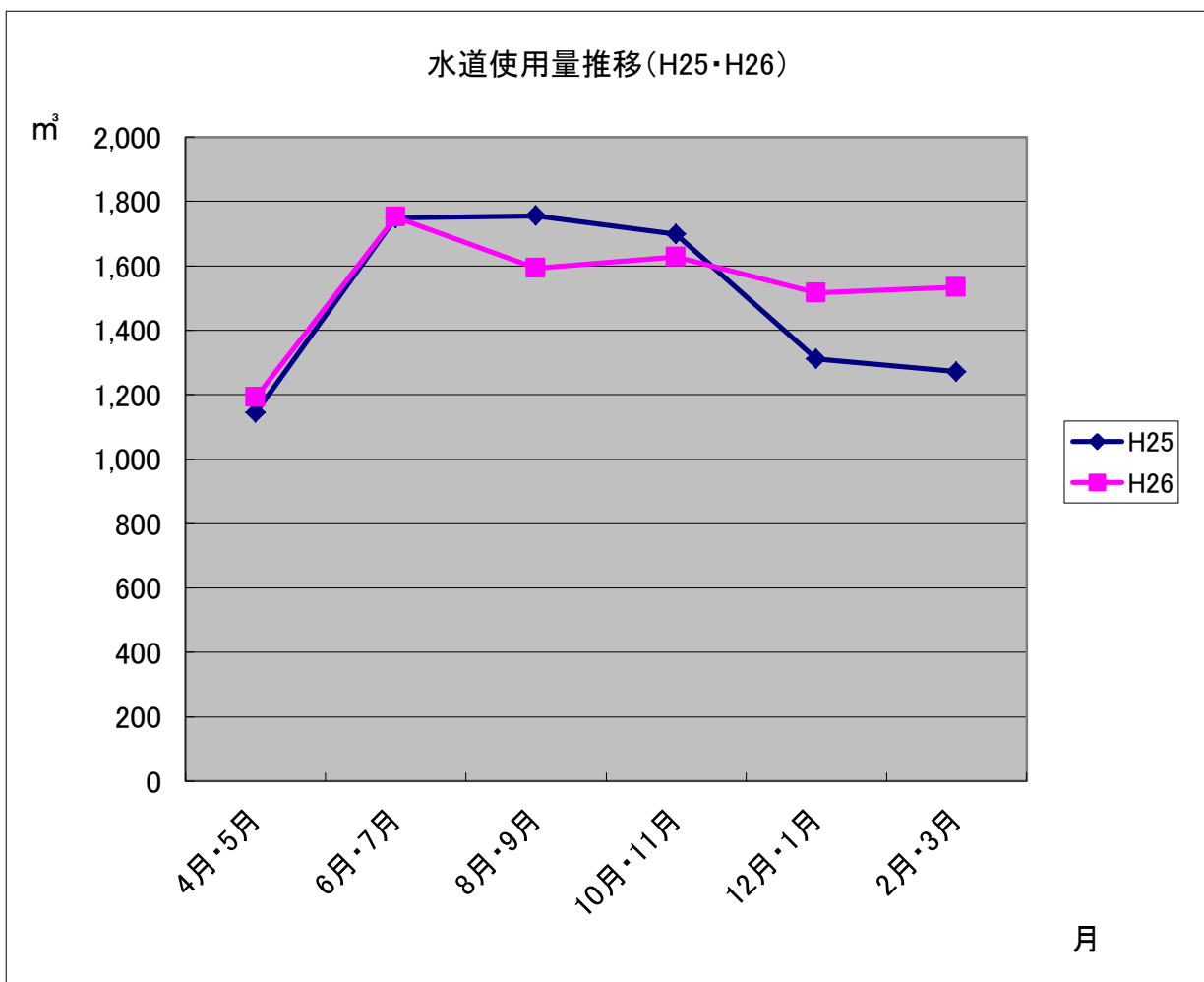
	鶏舎		【参考値】 校舎+鶏舎	平成25年度	【参考値】 前年比
	従量電灯C	低圧電力			
4月			34,127	34,009	0.3%
5月	275	31	31,373	34,153	-8.1%
6月	353	21	37,788	40,040	-5.6%
7月	428	17	37,872	41,788	-9.4%
8月	615	12	39,763	43,584	-8.8%
9月	504	31	43,842	46,995	-6.7%
10月	471	64	38,902	42,159	-7.7%
11月	628	50	44,561	42,959	3.7%
12月	576	7	40,989	41,103	-0.3%
1月	760	10	37,680	38,177	-1.3%
2月	601	8	45,738	43,073	6.2%
3月	272	9	36,503	35,935	1.6%
計	5483	260	469,138	483,975	-3.1%



水道使用量の推移 (H25・H26)

単位: m³

	平成25年度	平成26年度	前年比
4月・5月	1,145	1,192	4.1% 増
6月・7月	1,749	1,752	0.2% 増
8月・9月	1,755	1,593	-9.2%
10月・11月	1,698	1,627	-4.2%
12月・1月	1,311	1,516	15.6% 増
2月・3月	1,271	1,534	20.7% 増
計	8,929	9,214	3.2% 増



6. 2014年度 環境目的・目標の達成度一覧（まとめ）

2015年3月25日

No	環境目的	環境目標 (2014年度)	達成度 (年度末のまとめ)	
1	環境教育 環境教育を通して、生徒に「想像力」「行動力」「理解力」の3つの力をつける	各教科・各コース等での、環境教育の実施と展開	各部門の環境教育プログラムに沿って、環境教育を実施、環境教育実施報告書が提出された。	
		環境週間の実施と展開 環境月間の実施と展開	6月の環境週間と10～11月の環境月間を中心に全職員で取り組んだ。環境月間では、全職員(事務職員を除く)から環境教育実施報告書が提出された。	
		地域とのコミュニケーション活動の推進	家庭学科・農業学科の各コースを中心に地域との連携(環境教育・環境保全活動等)が実施された。	
		防災教育(防災訓練)の実施	9月防災訓練:地震・火災発生を想定した避難訓練、初期消火訓練及び学校備蓄米を利用した炊き出し訓練が実施された。12月防災訓練:防災講話と救急法(三角巾包帯法)訓練を全校生徒と地域住民も参加して実施された。また全校生徒へ、三角巾の配備(3年目)を行った。	
2	地球温暖化防止	① 節電を実行する	グリーン購入法に従い、節電型電球の100%利用を進める 電気使用量、前年度比3%削減に努める	グリーン購入法に従って処理し、法規制の順守状況を監視し、記録を完了した。グリーン購入の比率は100%である。電気使用量については、前年度比4.3%の削減となり、削減目標を達成した。
		② 節水の啓発活動を実行する	不要な水を出さない取組のために、環境週間を設定し、全部門における啓発を実行する	不要な水を出さないことの啓発活動を6月環境週間において、生徒環境委員会主導で実施した。水道使用量については、前年度比3.2%の増加となったが、無理のない範囲内の節水が実施された。
3	廃棄物の削減	紙使用量の減量化と分別処理による紙の再利用化を推進する	業務活動に関わる紙使用量の減量化に努めるとともに、使用後の分別処理を徹底し、紙使用量における100%リサイクル化に努める。	紙使用量の減量化と両面使用によるリサイクル化と使用後の分別処理に努めた。
		環境コミュニケーションの推進	環境意識の向上と環境コミュニケーション活動の推進	職員向け環境教育の実施 4月新着者対象、5月全職員対象にISO研修を実施した。 校外外への環境コミュニケーション活動の推進 ①Mieこどもエコフェア2014出展②環境講座「環境工房・花炭」への協力③みえ環境フェア2014出展④環境活動団体交流会参加等の情報発信を実施した。 環境報告書の発行 「環境報告書2014」として、額の汗(復活第8号)へ掲載した。